



- 《担当講義》  
情報リテラシー  
システム管理  
統計学基礎
- 《研究テーマ》  
統計学  
 データ学習と不完全データ解析
- 《プロフィール》  
出身県 岡山県  
血液型:A型  
星座:かに座  
好きな言葉:七転び八起き

《主な履歴》  
岡山理科大学を卒業後、倉敷芸術科学大学助手、講師を経て、2002年度より、岡山理科大学講師。2000年に東京理科大学で博士(工学)の学位を取得。

「先生が研究されている内容について教えてください。」

社会調査などで得られるデータから統計的手法を使って有用な情報を見つけ出すことに特に興味があります。一つは、調査項目間の関連性を示すための技法と、視覚的に表現するための技法と、その統計的推論方法の提案です。もう一つは、欠側データ(データのある部分が欠けている)に対する統計的推論法と数値計算法の開発です。

「学生に対してのアドバイスといえば・・・」  
 勉強面については、まずはキチンと必要な単位を取得すること。そして、評価が良ければなお良いですね。1、2年次の間に自分が強く惹かれる分野やテーマを見つけることができれば、大学にきている意義が十分にあるのではないかと思います。やらされる勉強と自らのやる勉強の違い、知るといふことの面白さは是非体験してほしいと思います。

「学生時代の思い出は? いろいろあったと思いますが・・・」  
 普通の大学生でした。よく遊び、よく遊び、試験前には真面目に勉強する。  
 大学を卒業して、普通にコンピュータ会社でSEとして働くつもりでしたが、指導教官に大学院を勧められて進学をしました。

## 統計的手法使い情報見つけ出す

社会調査のアンケートなどで調査項目によっては回答してくれない場合があります。その回答をしてくれなかった部分を、他の回答を使って、予想できればいいなと思ひ、今の研究を始めました。

統計では、関連項目の予想を仮説検定という形で見ていくのですが、その仮説検定を見てすぐにわかるようにできたらいいなと思ひ、視覚的統計技法にも興味を持ち、社会情報学科で教えるようになってから研究を始めるようになりました。

生活面については、友達を作ること。二生涯付き合える友達を作るのができれば良いです。それから、何事にも恐れず数多くの失敗を経験してください。度胸がつきます。知恵もつきます。この二つは、大学勉強だけでは決して得ることができない貴重なものです。

「最後に岡山についてどのよう

## 生徒に近い存在、厳しく愛情を持って

私がサークルで忙しく、講義に出ていなくなつた時に、何度も学校に来いよと電話をしてくれました。留年して親との面談の時も親に真先に頭を下げてくれました。人の生徒の事を考えてくれていたんだと思ひました。留年してからはチューターでなくなつてしまいました。学校で会はず声をかけてくれ心配してくれま。とても生徒に近い存在であり、生徒に厳しく愛情を持って接してくれていました。

黒田先生はコンピュータを使った統計学を主に専門にされています。

講義中、知らないこと聞いたら大きな差があることよくおっしゃっています。知らなければ何もできないが、聞いた事があれば何かし問題をも自分の力で打開しようとかけとなり、社会に出てからも通用する言葉だと思ひました。先生の言葉で講義に対する姿勢が変わりました。

(受講生 篠原 啓10年3月卒)